



地域連携看護学実践研究センター ニュースレター



2024年度の活動

2024年度 活動の概要

東京慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究(JANP)センター長 高橋 衣



2024年度 JANP センターの活動は、“JANP センター学生委員”を設け、学生が希望する部門やグループに主体的に参加していきましました。また、8月に日本看護学教育学会(JANE)第34回学術集会では、セッション「地域で(と)つながる地域連携センターを基盤とした看護学教育」を開催し、地域とつながる活動を看護学教育にどのように取り入れているかを共有し語り合いました。各部門とグループでは、【みんなの学び場】は[にじいろスマイルの会]が「医療的ケア児のレスパイト」に注目した活動、【みんなの活動】は教員と学生のボランティア活動の推進や市民活動への参加、【みんなの保健室】は狛江市・調布市で保健室を定期的に開催しました。【ニーズリソースマッチンググループ】は、各部門の活動を支える調査研究を国内外に発信し、【広報グループ】では、JANP センターに興味を持ってくださった方がHPを見られた時に情報をキャッチしやすいように工夫に努めました。

JANP センターの2024年度の中心活動テーマは、“プレコンセプションケア”とし、発達段階別の教材カードを作成しました。2025年度は、いよいよ各部門やグループと連携しつつ実装にはいります。また、【みんなの活動】が中心となって、地域住民参画による看護学教育を推進していく予定です。各部門・グループの報告を写真と共にご覧ください。

プレコンセプションケア

リーダー 松永 佳子

2023年度、勉強会からスタートしたプレコンセプションケア(以下PCC)普及啓発活動事業。2年目となりました。2024年度は、普及啓発に必要な媒体を作成しました(写真参照)。コアメンバーを中心に、慈恵第三健康推進(JHOP)センターの看護職、第三病院の産婦人科医、助産師、狛江市内のクリニックの産婦人科医、調布市、狛江市にあるドラッグストアに勤務する薬剤師、狛江市内の中学校の養護教諭がグループに分かれて5回の会議を行いました。その結果、JANP センターではPCCに含まれる内容のうち主に3つのこと①食と体重②予防接種③発達に伴う心身の変化を中心に、発達段階に合わせた啓発をしていくこととなりました。みんなでプレコンセプションケア! 通称「みんプレ」は2025年度、実装していくことになります。まずは「元気なからだを作ろう」のキャッチフレーズで地域の若者に自身の健康に目を向けてもらう事業につながれば良いと思っています。

元気な“からだ”を作るために学んで「見」

- ・新常識! 「美体重」
- ・がんを予防する! HPVワクチン
- ・性に対する困りごと相談できて!

元気な“からだ”を作るために学んで「見」

- ・バランス良い食事って?
- ・予防接種ってなぜ必要?
- ・どうやって話す? プライベート!

元気な“からだ”を作るために学んで「見」

- ・身長と体重のバランスは大丈夫
- ・病気を予防する予防接種
- ・大人へのからだの変化

元気な“からだ”を作るために学んで「見」ませんか?

- ・あなたのサビない「美体重」新常識
- ・パートナーとあなたを守る最強スキル
- ・知っておきたい妊娠のあれこれ



HPへのリンクは
こちら➡



みんなの活動

部門長 梶井 文子

みんなの活動の「ボランティア活動や患者会・家族会等を支援し、住民どうしのつながりを推進する」の目的のもとに、2024年度は多くの活動をしました。28団体からの教員や学生向けのボランティア活動への参加の依頼を周知し、多くの教員や学生の参加につながりました。地域の中でのJANPセンターの位置づけの強化のために、調布市や狛江市の市民活動支援センターと連携を継続し、調布市市民活動運営委員として役割を担い調布市の市民活動を推進したり、狛江市の「コマラジ」へJANPセンター長と、JHOPセンター長と出演につなげました。また東京慈恵会医科大学附属第三病院の認知症疾患医療センターとの共催の「慈恵結びの会」を3回開催し、心身のリフレッシュのために水引小物(写真)を作成しました。さらにJANPセンター学生委員がつくれ、その活動全体のサポートもしています。次年度に向けて「地域住民参画による看護学教育」を推進していくためのニーズ調査も行いました。



2024年12月7日に参加者全員で「お正月飾り」をつくりました。



みんなの保健室

部門長 嶋澤 順子

みんなの保健室は、身近な場所で気軽に健康相談できる場所として、地域の施設をお借りして実施しています。保健師や看護経験のある看護学科の教員や看護学科の学生が、簡単なヘルスチェック(血圧や体組成測定、握力測定による体力確認)と健康に関する何でも相談を行っています。健康診断結果の確認、病院受診前の疑問、定期的な健康確認、といった利用があります。赤ちゃんから高齢の方まで、どなたでもご利用いただけます。

2024年度は、多摩川住宅内の大集会室やロコ棟集会室、国領駅前市民プラザあくろす市民活動支援センター内スペースをお借りして、また、調布市まち活フェスタへの参加など計11回開催しました。写真は、9月に行った看護学科4年生総合実習での「みんなの保健室」です。2025年度も、多摩川住宅内や市民プラザあくろすなどで複数回開催予定です。お気軽に、ぜひいらしてください。



ニーズリソースマッチンググループ

グループ長 志村 友理

2024年度ニーズリソースマッチンググループでは2023年度に行った調布市・狛江市在住在勤者のヘルスリテラシーに関する調査の学会報告や論文執筆をしました。学会報告は、第34回日本看護学教育学会学術集会、第141回成医会総会にて行いました。論文はデータの一部についてPublic Health Nursing誌(<https://doi.org/10.1111/phn.13384>)に掲載されました。2023年度はJANPセンター全体の活動の示唆を得るための調査を実施しました。2025年度からはまなび場部門のにじいろスマイルの会の活動の示唆を得るため、医療的ケア児とその家族を支援するにあたり実態や課題を調査していく予定です。



みんなの学び場

部門長 清水 由美子

まなび場部門では、地域住民に向けた健康や医療に関する情報発信と学びの場の提供と、保健医療福祉専門職のニーズに応える情報発信や学びの支援を目指しています。2024年11月に染地小地区協議会が主催するスマホ相談会に協力し、JANPセンター学生委員とともに企画会議への参加ならびに相談ボランティアとして活動しました。また、2025年3月に「医療的ケア児のレスパイト」をテーマとする学習会を開催し、施設および在宅におけるレスパイトについて医療機関および訪問看護ステーションの実践を学びました。まなび場部門では2021年度より、在宅で生活する医療的ケアを必要とする子どもとその家族へのケアについて学ぶ「にじいろスマイルの会(小児在宅ケア)」を立ち上げ、本講座はその一環として企画しました。今後も地域の皆様や保健医療福祉専門職の学びのニーズに合わせた活動を目指します。



「医療的ケア児のレスパイト」学習会